

10課

真のクリスチャンの働き

9月5日

安息日午後

8月29日

暗証聖句

わたしたちは、四方から患難を受けても窮しない。途方にくれても行き詰まらない。迫害に会っても見捨てられない。倒されても滅びない。いつもイエスの死をこの身に負っている。それはまた、イエスのいのちが、この身に現れるためである。(Ⅱコリント 4:8~10、口語訳)

わたしたちは、四方から苦しめられても行き詰まらず、途方に暮れても失望せず、虐げられても見捨てられず、打ち倒されても滅ぼされない。わたしたちは、いつもイエスの死を体にまっています、イエスの命がこの体に現れるために。(Ⅱコリント 4:8~10、新共同訳)

今週の聖句

Ⅱコリント 3:1~9、Ⅱコリント 4:7~18、Ⅱコリント 5:11~15、コロサイ 1:19~23、エフェソ(エペソ) 2:13~16、Ⅱコリント 6:11~7:1、Ⅱコリント 7章

今週のテーマ

先週、私たちは、パウロが自分の純真と誠実を主張することで、コリントの信徒に対する気まぐれや愛の欠如といった非難から自身を弁護したことを学びました。彼は常に、自分の霊的な子らの最善の益のために働きました。パウロは、Ⅱコリント 2:12~17で、そこから7章まで続く一連の思索を始めました。そこで、彼はキリストのための真の働きとはどのようなものかを考えており、私たちはパウロの考えから多くの教訓を得ることができます。

今週、私たちはⅡコリント 3~7章を学びます。そこでパウロは、キリストのために魂を獲得するという自分の働きについて語っています。エレン・ホワイトは次のように述べています。「罪人が悔い改めて、真理によってきよめられることは、神が、牧師を伝道の仕事に召された最も強力な証拠である。彼の使徒職の証拠は、改心した人々の心に書かれ、彼らの新たな生活によって、立証される。栄光の望みであられるキリストが、心の中に形づくられる。牧師は、彼の働きにこのような証印が押されて、大いに力づけられるのである」(『希望への光』1480ページ、『患難から栄光へ』第31章)。

Ⅱコリ 2:12～17 (新共同訳)

2:12 わたしは、キリストの福音を伝えるためにトロアスに行ったとき、主によってわたしのために門が開かれていましたが、

2:13 兄弟テトスに会えなかったので、不安の心を抱いたまま人々に別れを告げて、マケドニア州に出発しました。

2:14 神に感謝します。神は、わたしたちをいつもキリストの勝利の行進に連らせ、わたしたちを通じて至るところに、キリストを知るといふ知識の香りを漂わせてくださいます。

2:15 救いの道をたどる者にとっても、滅びの道をたどる者にとっても、わたしたちはキリストによって神に献げられる良い香りです。

2:16 滅びる者には死から死に至らせる香りであり、救われる者には命から命に至らせる香りです。このような務めにだれがふさわしいでしょうか。

2:17 わたしたちは、多くの人々のように神の言葉を売り物にせず、誠実に、また神に属する者として、神の御前でキリストに結ばれて語っています。

※ Ⅱコリ 3～7 章は各自お手元の聖書をお読みください。

Ⅱコリ 2:12～17 (口語訳)

2:12 さて、キリストの福音のためにトロアスに行ったとき、わたしのために主の門が開かれたにもかかわらず、

2:13 兄弟テトスに会えなかったので、わたしは気が気でなく、人々に別れて、マケドニアに出かけて行った。

2:14 しかるに、神は感謝すべきかな。神はいつもわたしたちをキリストの凱旋に伴い行き、わたしたちをとおしてキリストを知る知識のかおりを、至る所に放って下さるのである。

2:15 わたしたちは、救われる者にとっても滅びる者にとっても、神に対するキリストのかおりである。

2:16 後者にとっては、死から死に至らせるかおりであり、前者にとっては、いのちからいのちに至らせるかおりである。いったい、このような任務に、だれが耐え得ようか。

2:17 しかし、わたしたちは、多くの人のように神の言を売物にせず、真心をこめて、神につかわされた者として神のみまえて、キリストにあって語るのである。

日曜日 8月30日 真の働きの実り

問1 Ⅱコリント 3:1～9 を読んでください。どういう意味において、私たちはキリストの手紙となることができるでしょうか。

ギリシア・ローマ世界では推薦状がよく用いられていましたが、パウロはそのような手紙を携えていませんでした。コリントの信徒の生き方における聖霊の変革力こそが、彼の働きが本物であることの証拠でした。パウロは、自分の知性や努力によってコリントの教会が誕生したのではないことを確信していたのです(Ⅱコリント 3:4～6)。彼は自己宣伝に手を染めることはありませんでした(同 3:5、1コリ 2:2)。

パウロは、モーセに代表される古い契約と、彼や同僚たちに代表される新しい契約という二つの契約について簡潔に論じながら、自らの宣教について語っています。性急な読者は、古い契約には救いの希望がないと考えるかもしれませんが、それは誤りです。救いは、新しい契約と同様、古い契約においても与えられました。

古い契約は、福音を予期するものでした。「聖書は、神が異邦人を信仰によって義となさることを見越して、『あなたのゆえに異邦人は皆祝福される』という福音をアブラハムに予告しました」〔口語訳「聖書は、神が異邦人を信仰によって義とされることを、あらかじめ知って、アブラハムに、『あなたによって、すべての国民は祝福されるであろう』との良い知らせを、予告したのである」〕(ガラ 3:8)。

Ⅱコリント3:1～4:6を見ると、「古い契約」は、神を喜ばせる手段として自らの従順な行いに頼っていた人々の律法主義的な経験を象徴するために用いられていることがわかります。しかし新しい契約は、神が彼らのために、また彼らのうちに行うと約束されたすべてのことを、神の恵みに完全に頼って成し遂げようとする人々の経験を象徴しています。

パウロは、福音に対する信者と未信者の二つの異なる反応について語っているのであって、旧約聖書と新約聖書の異なる福音について語っているのではありません。なぜなら、神によって与えられる福音は一つだけであり、その「神がわたしたちを救い、聖なる招きによって呼び出してくださったのは、わたしたちの行いによるのではなく、御自身の計画と恵みによるのです。この恵みは、永遠の昔にキリスト・イエスにおいてわたしたちのために与えられ(たものです)」〔口語訳「神はわたしたちを救い、聖なる招きをもって召して下さったのであるが、それは、わたしたちのわざによるのではなく、神ご自身の計画に基き、また、永遠の昔にキリスト・イエスにあつてわたしたちに賜わっていた恵み(によるのである)」〕(Ⅱテモ 1:9)。

これは、Ⅱコリント2:14～4:6に歴史的な要素が含まれていないという意味ではありません。しかしパウロは、その歴史を用いて、彼らの中には「救いの道をたどる者」〔口語訳「救われる者」〕と「滅びの道をたどる者」〔口語訳「滅びる者」〕(Ⅱコリ 2:15)がいてと指摘しています。モーセの働きは、その働きに対する不信〔と信仰心の欠如〕のゆえに、罪と死に定める働きと見なされる可能性があります。パウロの働きは、義とする働き、命を与える聖霊の働きであると証明されました。コリントの教会が信じたからです。

【参考】英語テキストには本文に続きがあります。

This experience of salvation of the church in Corinth is the evidence of Paul's authentic ministry.

コリントの教会におけるこの救いの体験こそが、パウロの真の働きの証しです。

68

Ⅱコリ 3:1～4:6 (新共同訳)

3:1 わたしたちは、**またもや自分を推薦**し始めているのでしょうか。それとも、ある人々のように、あなたがたへの**推薦状**、あるいはあなたがたからの**推薦状**が、わたしたちに**必要な**のでしょうか。
3:2 わたしたちの**推薦状**は、あなたがた自身です。それは、わたしたちの心に書かれており、すべての人々から**知られ、読まれています**。

Ⅱコリ 3:1～4:6 (口語訳)

3:1 わたしたちは、**またもや、自己推薦**をし始めているのだろうか。それとも、ある人々のように、あなたがたに**あてた、あるいは、あなたがたからの推薦状が必要なの**だろうか。
3:2 わたしたちの**推薦状**は、あなたがたなのである。それは、わたしたちの心に**しる**されていて、すべての人に**知られ、かつ読まれている**。

3:3 あなたがたは、キリストがわたしたちを用いてお書きになった手紙として公にされています。墨ではなく生ける神の霊によって、石の板ではなく人の心の板に、書きつけられた手紙です。

3:4 わたしたちは、キリストによってこのような確信を神の前で抱いています。

3:5 もちろん、独りで何かできるなどと思う資格が、自分にあるということではありません。わたしたちの資格は神から与えられたものです。

3:6 神はわたしたちに、新しい契約に仕える資格、文字ではなく霊に仕える資格を与えてくださいました。文字は殺しますが、霊は生かします。

3:7 ところで、石に刻まれた文字に基づいて死に仕える務めさえ栄光を帯びて、モーセの顔に輝いていたつかの間の栄光のために、イスラエルの子らが彼の顔を見つめえないほどであったとすれば、

3:8 霊に仕える務めは、なおさら、栄光を帯びているはずではありませんか。

3:9 人を罪に定める務めが栄光をまわっていたとすれば、人を義とする務めは、なおさら、栄光に満ちあふれています。

3:10 そして、かつて栄光を与えられたものも、この場合、はるかに優れた栄光のために、栄光が失われています。

3:11 なぜなら、消え去るべきものが栄光を帯びていたのなら、永続するものは、なおさら、栄光に包まれているはずだからです。

3:12 このような希望を抱いているので、わたしたちは確信に満ちあふれてふるまっております。

3:13 モーセが、消え去るべきものの最後をイスラエルの子らに見られまいとして、自分の顔に覆いを掛けたようなことはしません。

3:14 しかし、彼らの考えは鈍くなってしまいました。今日に至るまで、古い契約が読まれる際に、この覆いは除かれずに掛かったままなのです。それはキリストにおいて取り除かれるものだからです。

3:3 そして、あなたがたは自分自身が、わたしたちから送られたキリストの手紙であって、墨によらず生ける神の霊によって書かれ、石の板にではなく人の心の板に書かれたものであることを、はっきりとあらわしている。

3:4 こうした確信を、わたしたちはキリストにより神に対していただいている。

3:5 もちろん、自分自身で事を定める力が自分にある、と言うのではない。わたしたちのこうした力は、神からきています。

3:6 神はわたしたちに力を与えて、新しい契約に仕える者とされたのである。それは、文字に仕える者ではなく、霊に仕える者である。文字は人を殺し、霊は人を生かす。

3:7 もし石に彫りつけた文字による死の務めが栄光のうちに行われ、そのためイスラエルの子らは、モーセの顔の消え去るべき栄光のゆえに、その顔を見つめることができなかったとすれば、

3:8 まして霊の務めは、はるかに栄光あるものではなからうか。

3:9 もし罪を宣告する務めが栄光あるものだとなれば、義を宣告する務めは、はるかに栄光に満ちたものである。

3:10 そして、すでに栄光を受けたものも、この場合、はるかにまさった栄光のまえに、その栄光を失ったのである。

3:11 もし消え去るべきものが栄光をもって現れたのなら、まして永存すべきものは、もっと栄光のあるべきものである。

3:12 こうした望みをいただいているので、わたしたちは思いきって大胆に語り、

3:13 そしてモーセが、消え去っていくものの最後をイスラエルの子らに見られまいとして、顔におおいをかけたようなことはしない。

3:14 実際、彼らの思いは鈍くなっていった。今日に至るまで、彼らが古い契約を朗読する場合、その同じおおいが取り去られないままに残っている。それは、キリストにあってはじめて取り除かれるのである。

3:15 このため、今日に至るまでモーセの書が読まれるときは、いつでも彼らの心には覆いが掛かっています。

3:16 しかし、主の方に向き直れば、覆いは取り去られます。

3:17 ここでいう主とは、“霊”のことですが、主の霊のおられるところに自由があります。

3:18 わたしたちは皆、顔の覆いを除かれて、鏡のように主の栄光を映し出しながら、栄光から栄光へと、主と同じ姿に造りかえられていきます。これは主の霊の働きによることです。

4:1 こういうわけで、わたしたちは、憐れみを受けた者としてこの務めをゆだねられているのですから、落胆しません。

4:2 かえって、卑劣な隠れた行いを捨て、悪賢く歩まず、神の言葉を曲げず、真理を明らかにすることにより、神の御前で自分自身をすべての人の良心にゆだねます。

4:3 わたしたちの福音に覆いが掛かっているとすると、それは、滅びの道をたどる人々に対して覆われているのです。

4:4 この世の神が、信じようとはしないこの人々の心の目をくらまし、神の似姿であるキリストの栄光に関する福音の光が見えないようにしたのです。

4:5 わたしたちは、自分自身を宣べ伝えるのではなく、主であるイエス・キリストを宣べ伝えています。わたしたち自身は、イエスのためにあなたがたに仕える僕なのです。

4:6 「闇から光が輝き出よ」と命じられた神は、わたしたちの心の内に輝いて、イエス・キリストの御顔に輝く神の栄光を悟る光を与えてくださいました。

I コリ 2:2 (新共同訳)

2:2 なぜなら、わたしはあなたがたの間で、イエス・キリスト、それも十字架につけられたキリスト以外、何も知るまいと心に決めていたからです。

ガラ 3:8 (新共同訳)

3:8 聖書は、神が異邦人を信仰によって義となさることを見越して、「あなたのゆえに異邦人は皆祝福される」という福音

3:15 今日に至るもなお、モーセの書が朗読されるたびに、おおいが彼らの心にかかっている。

3:16 しかし主に向く時には、そのおおいは取り除かれる。

3:17 主は霊である。そして、主の霊のあるところには、自由がある。

3:18 わたしたちはみな、顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである。

4:1 このようにわたしたちは、あわれみを受けてこの務についているのだから、落胆せずに、

4:2 恥ずべき隠れたことを捨て去り、悪巧みによって歩かず、神の言を曲げず、真理を明らかにし、神のみまえに、すべての人の良心に自分を推薦するのである。

4:3 もしわたしたちの福音がおおわれているなら、滅びる者どもにとっておおわれているのである。

4:4 彼らの場合、この世の神が不信の者たちの思いをくらませて、神のかたちであるキリストの栄光の福音の輝きを、見えなくしているのである。

4:5 しかし、わたしたちは自分自身を宣べ伝えるのではなく、主なるキリスト・イエスを宣べ伝える。わたしたち自身は、ただイエスのために働くあなたがたの僕にすぎない。

4:6 「やみの中から光が照りいでよ」と仰せになった神は、キリストの顔に輝く神の栄光の知識を明らかにするために、わたしたちの心を照して下さったのである。

I コリ 2:2 (口語訳)

2:2 なぜなら、わたしはイエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリスト以外のことは、あなたがたの間では何も知るまいと、決心したからである。

ガラ 3:8 (口語訳)

3:8 聖書は、神が異邦人を信仰によって義となさることを、あらかじめ知って、アブラハムに、「あなたによって、すべて

をアブラハムに予告しました。

Ⅱテモ 1:9 (新共同訳)

1:9 神がわたしたちを救い、聖なる招きによって呼び出してくださったのは、わたしたちの行いによるのではなく、御自身の計画と恵みによるのです。この恵みは、永遠の昔にキリスト・イエスにおいてわたしたちのために与えられ、

Ⅱコリ 2:14~17 (新共同訳)

2:14 神に感謝します。神は、わたしたちをいつもキリストの勝利の行進に連らせ、わたしたちを通じて至るところに、キリストを知るといふ知識の香りを漂わせてくださいます。

2:15 救いの道をたどる者にとっても、滅びの道をたどる者にとっても、わたしたちはキリストによって神に献げられる良い香りです。

2:16 滅びる者には死から死に至らせる香りであり、救われる者には命から命に至らせる香りです。このような務めにだれがふさわしいでしょうか。

2:17 わたしたちは、多くの人々のように神の言葉を売り物にせず、誠実に、また神に属する者として、神の御前でキリストに結ばれて語っています。

の国民は祝福されるであろう」との良い知らせを、予告したのである。

Ⅱテモ 1:9 (口語訳)

1:9 神はわたしたちを救い、聖なる招きをもって召して下さったのであるが、それは、わたしたちのわざによるのではなく、神ご自身の計画に基き、また、永遠の昔にキリスト・イエスにあってわたしたちに賜わっていた恵み、

Ⅱコリ 2:14~17 (口語訳)

2:14 しかるに、神は感謝すべきかな。神はいつもわたしたちをキリストの凱旋に伴い行き、わたしたちをとおしてキリストを知る知識のかおりを、至る所に放って下さるのである。

2:15 わたしたちは、救われる者にとっても滅びる者にとっても、神に対するキリストのかおりである。

2:16 後者にとっては、死から死に至らせるかおりであり、前者にとっては、いのちからいのちに至らせるかおりである。いったい、このような任務に、だれが耐え得ようか。

2:17 しかし、わたしたちは、多くの人のように神の言を売物にせず、真心をこめて、神につかわされた者として神のみまえて、キリストにあって語るのである。

月曜日 8月31日 苦しみと栄光

問2 Ⅱコリント 4:7~18 を読み、パウロの苦しみを列挙してください。彼はどのようなして苦しみに耐えたのでしょうか。

ボヘミアの偉大な宗教改革者ヨハン・フスはかつて、イエスについて次のように語りました。「彼〔キリスト〕は世界の主であられ、われわれは、卑しい人間である。それにもかかわらず、彼は苦しまれた。とすれば、われわれもまた苦しむべきではなかろうか。特にそれがわれわれのきよめのためであるとすれば」(『希望への光』1638 ページ、『各時代の斗争闘』第6章)。

使徒パウロは、何世紀も前に、キリストのために苦しむという同じ意志を示しました。彼は、自分がもろい土の器にすぎないことを知っていました(Ⅱコリ 4:7)。彼は絶えず苦難に遭い、苦しめられ、途方に暮れ、虐げられ、打ち倒されましたが、

それでも行き詰まることも、失望することも、見捨てられることも、滅ぼされることもありませんでした(同 4:8, 9)。パウロは自ら進んで、「イエスの死を体にまっています、イエスの命がこの体に現れるために」〔口語訳「イエスの死をこの身に負っている。それはまた、イエスのいのちが、この身に現れるためである」〕(同 4:10, 11)と語っています。

パウロが「イエスの死」という言葉で意味したのは、おそらく前の節で述べた苦しみのことでしょう。一方で、「イエスの命」〔口語訳「イエスのいのち」〕という言葉は、直接的には、死からの解放、あるいは現世における霊的な力を指しているようです。しかし究極的には、これは復活を指しています(同 4:12)。興味深いことに、「死」と「命」という言葉が、Ⅱコリント 4:10～12 に 3 回出てきます。このことは、現世において、命が死と混ざり合っていることを思い起こさせます。しかし、未来の栄光の中で、私たちは死のない命を経験するのです(黙 20:14, 21:4)。

最も重要なのは、Ⅱコリント 4:7～18 が示しているように、福音は非力な人間を通して宣べ伝えられ、それによって栄光は神にのみ帰せられるということです(Ⅱコリ 4:15)。宣教師が宣教活動の過程で苦難に遭うことは少なくありません。しかし、私たちを待ち受けている永遠の栄光の重みに比べれば、現世における私たちの苦難は軽く、一時的です(同 4:17)。信じる者は、見えるものによってではなく、信仰によって生きるのです(同 4:18, 5:7)。

来世に対するこの希望がパウロの心を強く捉えていたので、彼はその思いをこの箇所以降も語り続けています(同 5:1～10)。彼は自分の死すべき体を「地上のすみか」という比喻で表現しており、逆に、「神からいただく建物」(同 5:1, 口語訳)という言葉は復活した体の比喻であり、それはあらゆる時代の信者にとって大いなる希望なのです。

【参考】英語テキストにある英文

Why is it so important that, amid whatever we are going through now, we always keep the hope of the resurrection, our resurrection (1 Cor. 15:52), before us?

私たちが今どのような状況にあろうとも、復活、すなわち私たち自身の復活(Ⅰコリント 15:52)への希望を常に心に留めておくことが、なぜそれほど重要なのでしょうか。

69

Ⅱコリ 4:7～18 (新共同訳)

4:7 ところで、わたしたちは、このような宝を土の器に納めています。この並外れて偉大な力が神のものであって、わたしたちから出たものでないことが明らかになるために。

4:8 わたしたちは、四方から苦しめられても行き詰まらず、途方に暮れても失望せず、

Ⅱコリ 4:7～18 (口語訳)

4:7 しかしわたしたちは、この宝を土の器の中に持っている。その測り知れない力は神のものであって、わたしたちから出たものでないことが、あらわれるためである。

4:8 わたしたちは、四方から患難を受けても窮しない。途方にくれても行き詰まらない。

4:9 虐げられても見捨てられず、打ち倒されても滅ぼされない。

4:10 わたしたちは、いつもイエスの死を体にまっています、イエスの命がこの体に現れるために。

4:11 わたしたちは生きている間、絶えずイエスのために死にさらされています、死ぬはずのこの身にイエスの命が現れるために。

4:12 こうして、わたしたちの内には死が働き、あなたがたの内には命が働いていることになります。

4:13「わたしは信じた。それで、わたしは語った」と書いてあるとおり、それと同じ信仰の霊を持っているので、わたしたちも信じ、それだからこそ語ってもいます。

4:14 主イエスを復活させた神が、イエスと共にわたしたちをも復活させ、あなたがたと一緒に御前に立たせてくださると、わたしたちは知っています。

4:15 すべてこれらのことは、あなたがたのためであり、多くの人々が豊かに恵みを受け、感謝の念に満ちて神に栄光を帰すようになるためです。

4:16 だから、わたしたちは落胆しません。たとえわたしたちの「外なる人」は衰えていくとしても、わたしたちの「内なる人」は日々新たにされていきます。

4:17 わたしたちの一時の軽い艱難は、比べものにならないほど重みのある永遠の栄光をもたらしてくれます。

4:18 わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。

黙 20:14 (新共同訳)

20:4 死も陰府も火の池に投げ込まれた。この火の池が第二の死である。

黙 21:4 (新共同訳)

21:4 彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってください。もはや死はなく、もはや悲しみ嘆きも労苦もない。最初のもは過ぎ去ったからである。」

4:9 迫害に会っても見捨てられない。倒されても滅びない。

4:10 いつもイエスの死をこの身に負っている。それはまた、イエスのいのちが、この身に現れるためである。

4:11 わたしたち生きている者は、イエスのために絶えず死に渡されているのである。それはイエスのいのちが、わたしたちの死ぬべき肉体に現れるためである。

4:12 こうして、死はわたしたちのうちに働き、いのちはあなたがたのうちに働くのである。

4:13「わたしは信じた。それゆえに語った」としてあるとおり、それと同じ信仰の霊を持っているので、わたしたちも信じている。それゆえに語るのである。

4:14 それは、主イエスをよみがえらせたかたが、わたしたちをもイエスと共によみがえらせ、そして、あなたがたと共にみまえに立たせて下さることを、知っているからである。

4:15 すべてのことは、あなたがたの益であって、恵みがますます多くの人に増し加わるにつれ、感謝が満ちあふれて、神の栄光となるのである。

4:16 だから、わたしたちは落胆しない。たといわたしたちの外なる人は滅びても、内なる人は日ごとに新しくされていく。

4:17 なぜなら、このしばらくの軽い患難は働いて、永遠の重い栄光を、あふれるばかりにわたしたちに得させるからである。

4:18 わたしたちは、見えるものではなく、見えないものに目を注ぐ。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠につづくのである。

黙 20:14 (口語訳)

20:4 それから、死も黄泉も火の池に投げ込まれた。この火の池が第二の死である。

黙 21:4 (口語訳)

21:4 人の目から涙を全くぬぐいにとって下さる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。先のものが、すでに過ぎ去ったからである。」

Ⅱコリ 5:1～10 （新共同訳）

5:1 わたしたちの地上の住みかである幕屋が滅びても、神によって建物が備えられていることを、わたしたちは知っています。人の手で造られたものではない天にある永遠の住みかです。

5:2 わたしたちは、天から与えられる住みかを上に着たいと切に願って、この地上の幕屋にあって苦しみもだえています。

5:3 それを脱いでも、わたしたちは裸のままではおりません。

5:4 この幕屋に住むわたしたちは重荷を負ってうめいておりますが、それは、地上の住みかを脱ぎ捨てたいからではありません。死ぬはずのものが命に飲み込まれてしまうために、天から与えられる住みかを上に着たいからです。

5:5 わたしたちを、このようになるのにふさわしい者としてくださったのは、神です。神は、その保証として“霊”を与えてくださったのです。

5:6 それで、わたしたちはいつも心強いのですが、体を住みかとしているかぎり、主から離れていることも知っています。

5:7 目に見えるものによらず、信仰によって歩んでいるからです。

5:8 わたしたちは、心強い。そして、体を離れて、主のもとに住むことをむしろ望んでいます。

5:9 だから、体を住みかとしていても、体を離れているにしても、ひたすら主に喜ばれる者でありたい。

5:10 なぜなら、わたしたちは皆、キリストの裁きの座の前に立ち、善であれ悪であれ、めいめい体を住みかとしていたときに行ったことに応じて、報いを受けねばならないからです。

I コリ 15:52 （新共同訳）

15:52 最後のラッパが鳴るとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は復活して朽ちない者とされ、わたしたちは変えられます。

Ⅱコリ 5:1～10 （口語訳）

5:1 わたしたちの住んでいる地上の幕屋がこわれると、神からいただく建物、すなわち天にある、人の手によらない永遠の家が備えてあることを、わたしたちは知っている。

5:2 そして、天から賜われるそのすみを、上に着ようと切に望みながら、この幕屋の中で苦しみもだえている。

5:3 それを着たなら、裸のままではないことになる。

5:4 この幕屋の中にいるわたしたちは、重荷を負って苦しみもだえている。それを脱ごうと願うからではなく、その上に着ようと願うからであり、それによって、死ぬべきものがいのちのにのまれてしまうためである。

5:5 わたしたちを、この事にかなう者にして下さったのは、神である。そして、神はその保証として御霊をわたしたちに賜ったのである。

5:6 だから、わたしたちはいつも心強い。そして、肉体を宿としている間は主から離れていることを、よく知っている。

5:7 わたしたちは、見えるものによらないで、信仰によって歩いているのである。

5:8 それで、わたしたちは心強い。そして、むしろ肉体から離れて主と共に住むことが、願わしいと思っている。

5:9 そういうわけだから、肉体を宿としているにしても、それから離れているにしても、ただ主に喜ばれる者となるのが、心からの願いである。

5:10 なぜなら、わたしたちは皆、キリストのさばきの座の前にあらわれ、善であれ悪であれ、自分の行ったことに応じて、それぞれ報いを受けねばならないからである。

I コリ 15:52 （口語訳）

15:52 というのは、ラッパが響いて、死人は朽ちない者によみがえらせられ、わたしたちは変えられるのである。

問3 IIコリント 5:11～15 を読んでください。この箇所は、パウロの働きがキリスト中心であったことを、いかに示していますか。

パウロは、自分の働きについてキリストに報告しなければならないことを知っていました(IIコリ 5:10)。彼は、「主に対する畏れ」〔口語訳「主の恐るべきこと」〕(同5:11)を知っており、キリストの福音について人々を説得しようと努めました。この畏れは、キリストに対する畏敬の念であり、それゆえ、キリストに対するパウロの愛や、キリストが彼を愛しておられることへの信頼と結びついています。旧約聖書において、主を畏れるとは、主の道を歩み、主を愛し、心と魂を尽くして主に仕えることを意味していました(申 10:12)。

パウロの働きは、自分中心ではなく、キリスト中心であり、彼は自分を賞賛しませんでした。彼が誇る理由は、キリストでした(IIコリ 12:9)。「しかし、このわたしには、わたしたちの主イエス・キリストの十字架のほかには、誇るものが決してあってはなりません」〔口語訳「しかし、わたし自身には、わたしたちの主イエス・キリストの十字架以外に、誇とするものは、断じてあってはならない」〕(ガラ 6:14)と、彼は語っています。したがって、コリントの信徒がパウロについて誇る機会(IIコリ 5:12)というのは、彼に敵対する者たちの自分中心な働きとは対照的に、キリスト中心の彼の働きを誇ることを意味していました。

問4 IIコリント 5:16～21、コロサイ 1:19～23、エフェソ(エペソ)2:13～16 を読んでください。パウロが言う「和解のために奉仕する任務」〔口語訳「和解の務」(IIコリ 5:18)〕とは、どういう意味でしょうか。

キリストは卓越した和解の奉仕者です。それゆえ彼は、「和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました」〔口語訳「和解の務をわたしたちに授けて下さった」〕(IIコリ 5:18)。IIコリント5:16～21の中に、和解という概念が繰り返し登場します。これはパウロにとって極めて重要な概念であり、同様に私たちにとっても重要なものです。

神は御子のあがないの死によって、人類をご自分と和解させられました。神と和解した者は、「新しく創造された者」〔口語訳「新しく造られた者」〕(同 5:17)です。今や彼らは、キリストの福音を宣べ伝えることによって、この「和解の言葉」〔口語訳「和解の福音」〕(同 5:19)を人々に伝えていくよう求められています。その意味で、「神がわたしたちを通して勧めておられるので、わたしたちはキリストの使者の務めを果たしています」〔口語訳「神がわたしたちをとおして勧めをなさるのであるから、わたしたちはキリストの使者なのである」〕(同 5:20)。

【参考】英語テキストにある英文

Think about what Christ has done for you. Think about the guilt, the sin, the condemnation that would be yours but for what He did for you at the cross. How should this reality impact how you relate to others, especially those who don't know the Lord?

キリストがあなたのためにしてくださったことを考えてみてください。キリストが十字架上であなたのためにしてくださったことがなければ、あなたが負わなければならなかったであろう罪悪感、罪、そして裁きについて考えてみてください。この現実が、他者、とりわけ主を知らない人々との関わり方に、どのような影響を与えるべきでしょうか。

70

Ⅱ コリ 5:11~15 (新共同訳)

5:11 主に対する畏れを知っているわたしたちは、人々の説得に努めます。わたしたちは、神にはありのままに知られています。わたしは、あなたがたの良心にもありのままに知られたいと思います。

5:12 わたしたちは、あなたがたにもう一度自己推薦をしようというではありません。ただ、内面ではなく、外面を誇っている人々に応じられるように、わたしたちのことを誇る機会をあなたがたに提供しているのです。

5:13 わたしたちが正気でないとするなら、それは神のためであったし、正気であるなら、それはあなたがたのためです。

5:14 なぜなら、キリストの愛がわたしたちを駆り立てているからです。わたしたちはこう考えます。すなわち、一人の方がすべての人のために死んでくださった以上、すべての人も死んだことになりま

す。

5:15 その一人の方はすべての人のために死んでくださった。その目的は、生きている人たちが、もはや自分自身のために生きるのではなく、自分たちのために死んで復活してくださった方のために生きることなのです。

申 10:12 (新共同訳)

10:12 イスラエルよ。今、あなたの神、主があなたに求めておられることは何か。ただ、あなたの神、主を畏れてそのすべての道に従って歩み、主を愛し、心を尽

Ⅱ コリ 5:11~15 (口語訳)

5:11 このようにわたしたちは、主の恐るべきことを知っているの、人々に説き勧める。わたしたちのことは、神のみまえには明らかになっている。さらに、あなたがたの良心にも明らかになるようにと望む。

5:12 わたしたちは、あなたがたに対して、またもや自己推薦をしようとするのではない。ただわたしたちを誇る機会を、あなたがたに持たせ、心を誇るのではなくうわべだけを誇る人々に答えうようにさせたいのである。

5:13 もしわたしたちが、気が狂っているのなら、それは神のためであり、気が確かであるのなら、それはあなたがたのためである。

5:14 なぜなら、キリストの愛がわたしたちに強く迫っているからである。わたしたちはこう考えている。ひとりの人がすべての人のために死んだ以上、すべての人が死んだのである。

5:15 そして、彼がすべての人のために死んだのは、生きている者がもはや自分のためにではなく、自分のために死んでよみがえったかたのために、生きるためである。

申 10:12 (口語訳)

10:12 イスラエルよ、今、あなたの神、主があなたに求められる事はなんであるか。ただこれだけである。すなわちあなたの神、主を恐れ、そのすべての道に歩

くし、魂を尽くしてあなたの神、主に仕え、

Ⅱコリ 12:9 (新共同訳)

12:9 すると主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」と言われました。だから、キリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。

ガラ 6:14 (新共同訳)

6:14 しかし、このわたしには、わたしたちの主イエス・キリストの十字架のほかには、誇るものが決してあってはなりません。この十字架によって、世はわたしに対し、わたしは世に対してはりつけにされているのです。

Ⅱコリ 5:16~21 (新共同訳)

5:16 それで、わたしたちは、今後だれをも肉に従って知ろうとはしません。肉に従ってキリストを知っていたとしても、今はもうそのように知ろうとはしません。

5:17 だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。

5:18 これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。

5:19 つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。

5:20 ですから、神がわたしたちを通して勧めておられるので、わたしたちはキリストの使者の務めを果たしています。キリストに代わってお願いします。神と和解させていただきなさい。

5:21 罪と何のかかわりもない方を、神はわたしたちのために罪となさいました。わたしたちはその方によって神の義を得ることができたのです。

んで、彼を愛し、心をつくし、精神をつくしてあなたの神、主に仕え、

Ⅱコリ 12:9 (口語訳)

12:9 ところが、主が言われた、「わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いところに完全にあらわれる」。それだから、キリストの力がわたしに宿るように、むしろ、喜んで自分の弱さを誇ろう。

ガラ 6:14 (口語訳)

6:14 しかし、わたし自身には、わたしたちの主イエス・キリストの十字架以外に、誇とするものは、断じてあってはならない。この十字架につけられて、この世はわたしに対して死に、わたしもこの世に対して死んでしまったのである。

Ⅱコリ 5:16~21 (口語訳)

5:16 それだから、わたしたちは今後、だれをも肉によって知ることはすまい。かつてはキリストを肉によって知っていたとしても、今はもうそのような知り方をすまい。

5:17 だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである。

5:18 しかし、すべてこれらの事は、神から出ている。神はキリストによって、わたしたちをご自分に和解させ、かつ和解の務をわたしたちに授けて下さった。

5:19 すなわち、神はキリストにおいて世をご自分に和解させ、その罪過の責任をこれに負わせることをしないで、わたしたちに和解の福音をゆだねられたのである。

5:20 神がわたしたちをとおして勧めをなさるのであるから、わたしたちはキリストの使者なのである。そこで、キリストに代って願う、神の和解を受けなさい。

5:21 神はわたしたちの罪のために、罪を知らないかたを罪とされた。それは、わたしたちが、彼にあって神の義となるためなのである。

コロ 1:19～23 （新共同訳）

1:19 神は、御心のままに、満ちあふれるものを余すところなく御子の内に宿らせ、

1:20 その十字架の血によって平和を打ち立て、地にあるものであれ、天にあるものであれ、万物をただ御子によって、御自分と和解させられました。

1:21 あなたがたは、以前は神から離れ、悪い行いによって心の中で神に敵対していました。

1:22 しかし今や、神は御子の肉の体において、その死によってあなたがたと和解し、御自身の前に聖なる者、きずのない者、とがめるところのない者としてくださいました。

1:23 ただ、揺るぐことなく信仰に踏みとどまり、あなたがたが聞いた福音の希望から離れてはなりません。この福音は、世界中至るところの人々に宣べ伝えられており、わたしパウロは、それに仕える者とされました。

エフェ 2:13～16 （新共同訳）

2:13 しかしあなたがたは、以前は遠く離れていたが、今や、キリスト・イエスにおいて、キリストの血によって近い者となったのです。

2:14 実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、

2:15 規則と戒律づくめの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、双方を御自分において一人の新しい人に造り上げて平和を実現し、

2:16 十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました。

コロ 1:19～23 （口語訳）

1:19 神は、御旨によって、御子のうちにすべての満ちみちた徳を宿らせ、

1:20 そして、その十字架の血によって平和をつくり、万物、すなわち、地にあるもの、天にあるものを、ことごとく、彼によってご自分と和解させて下さったのである。

1:21 あなたがたも、かつては悪い行いをして神から離れ、心の中で神に敵対していた。

1:22 しかし今では、御子はその肉のからだにより、その死をとおして、あなたがたを神と和解させ、あなたがたを聖なる、傷のない、責められるところのない者として、みまえに立たせて下さったのである。

1:23 ただし、あなたがたは、ゆるぐことがなく、しっかりと信仰にふみとどまり、すでに聞いている福音の望みから移り行くことのないようにすべきである。この福音は、天の下にあるすべての造られたものに対して宣べ伝えられたものであって、それにこのパウロが奉仕しているのである。

エペ 2:13～16 （口語訳）

2:13 ところが、あなたがたは、このように以前は遠く離れていたが、今ではキリスト・イエスにあって、キリストの血によって近いものとなったのである。

2:14 キリストはわたしたちの平和であって、二つのものを一つにし、敵意という隔ての中垣を取り除き、ご自分の肉によって、

2:15 数々の規定から成っている戒めの律法を廃棄したのである。それは、彼にあって、二つのものをひとりの新しい人に造りかえて平和をきたらせ、

2:16 十字架によって、二つのものを一つのからだとして神と和解させ、敵意を十字架にかけて滅ぼしてしまったのである。

Ⅱコリント6:3～10でパウロは神と和解しなさいと、コリントの信徒に勧め続けており、キリストに従う者、神の働き人であるとはどういうことかを示すために、数々の苦難と勝利を列挙しています。つまり、困難な状況(Ⅱコリ 6:4、5)、品性の徳(同 6:6)、働きのために備えるべきもの(同 6:7)、働きの中での浮き沈み(同 6:8～10)などを挙げているのです。パウロは、コリントの信徒に神との和解を勧告したあと、信仰のない人々の有害な影響や汚れたものから遠ざかることによって、聖い生活を送りなさいと訴えています(同 6:14～17)。

問5 Ⅱコリント 6:11～7:1 を読んでください。この箇所によれば、聖い生活とはどのようなものでしょうか。

パウロはこの箇所で、教会内における寛容や愛の大切さを強調しています(Ⅱコリ 6:11～13)。人々が神と和解した証拠は、互いに和解を求めることにあります。彼らはいわば、水平的な〔人間同士の〕和解を促す者となるのです。

次に、聖い生活への呼びかけが、六つの訴えによってなされています。(1)「信仰のない人々と一緒に不釣り合いな軀につながれてはなりません」〔口語訳「不信者と、つり合わないくびきを共にするな」〕(同 6:14)。(2)「あの者どもの中から出て行く」……ように」〔口語訳「彼らの間から出て行(け)」〕(同 6:17)。(3)「遠ざかるように」〔口語訳「分離せよ」〕(同)。(4)「汚れたものに触れるのをやめよ」〔口語訳「汚れたものに触れてはならない」〕(同)。(5)「肉と霊のあらゆる汚れから自分を清め……ましょう」〔口語訳「肉と霊とのいっさいの汚れから自分をきよめ(よう)」〕(同 7:1)。(6)神を畏れ、完全に聖なる者となりましょう」〔口語訳「神をおそれて全く清くならうではないか」〕(同)。これらの勧告は、聖なる神が聖い生活と、偶像礼拝から遠ざかることを求めておられることを示しています。

一方、この箇所には、聖なる神殿としてのキリスト教会の役割を強調する七つの約束も示されています。(1)「わたしは彼らの間に住(む)」。(2)「わたしは彼らの間(を)……巡り歩く(出入りをする)」。(3)「(わたしは)彼らの神となる(る)」。(4)「彼らはわたしの民となる」。(5)「わたしはあなたがたを受け入れ(る)」。(6)「(わたしはあなたがたの)父となる(る)」。(7)「あなたがたはわたしの息子、娘となる」〔口語訳「あなたがたは、わたしのむすこ、むすめとなる」〕(同 6:16～18)。

Ⅱコリント 6:16 の四つの約束が、同 6:17 の三つの命令の基礎となっていることに注目してください(Ⅱコリ 6:17 の冒頭にある「だから」という言葉を参照)。これは、聖い生活が人の努力の結果ではなく、心の中における聖霊の働きの結果であることを示しています。聖い生活は神からもたらされるものですが、信者は自分の役割を果たし、偶像礼拝とあらゆる汚れた行為を拒絶しなければなりません。

【参考】英語テキストにある英文

What do God's promises in 2 Corinthians 6:16–18 tell us about what holiness is?

Ⅱコリント 6:16～18 にある神の約束は、聖さとは何かについて、私たちに何を教えているのでしょうか。

71

Ⅱコリ 2:3～11 (新共同訳)

2:3 あのようなことを書いたのは、そちらに行き、喜ばせてもらえるはずの人たちから悲しい思いをさせられなくなかったからです。わたしの喜びはあなたがたすべての喜びでもあると、あなたがた一同について確信しているからです。

2:4 わたしは、悩みと愁いに満ちた心で、涙ながらに手紙を書きました。あなたがたを悲しませるためではなく、わたしがあなたがたに対してあふれるほど抱いている愛を知ってもらうためでした。

2:5 悲しみの原因となった人がいれば、その人はわたしを悲しませたのではなく、大げさな表現は控えますが、あなたがたすべてをある程度悲しませたのです。

2:6 その人には、多数の者から受けたあの罰で十分です。

2:7 むしろ、あなたがたは、その人が悲しみに打ちのめされてしまわないように、赦して、力づけるべきです。

2:8 そこで、ぜひともその人を愛するようになしてください。

2:9 わたしが前に手紙を書いたのも、あなたがたが万事について従順であるかどうかを試すためでした。

2:10 あなたがたが何かのことで赦す相手は、わたしも赦します。わたしが何かのことで人を赦したとすれば、それは、キリストの前であなたがたのために赦したのです。

2:11 わたしたちがそうするのは、サタン

Ⅱコリ 2:3～11 (口語訳)

2:3 このような事を書いたのは、わたしが行く時、わたしを喜ばせてくれるはずの人々から、悲しい思いをさせられたくないためである。わたし自身の喜びはあなたがた全体の喜びであることを、あなたがたすべてについて確信しているからである。

2:4 わたしは大きな患難と心の憂いの中から、多くの涙をもってあなたがたに書きおくれた。それは、あなたがたを悲しませるためではなく、あなたがたに対してあふれるばかりにいただいているわたしの愛を、知ってもらうためであった。

2:5 しかし、もしだれかが人を悲しませたとすれば、それはわたしを悲しませたのではなく、控え目に言うが、ある程度、あなたがた一同を悲しませたのである。

2:6 その人にとっては、多数の者から受けたあの処罰でもう十分なだから、

2:7 あなたがたはむしろ彼をゆるし、また慰めてやるべきである。そうしないと、その人はますます深い悲しみに沈むかも知れない。

2:8 そこでわたしは、彼に対して愛を示すように、あなたがたに勧める。

2:9 わたしが書きおくれたのも、あなたがたがすべての事について従順であるかどうかを、ためすためにほかになかった。

2:10 もしあなたがたが、何かのことにいて人をゆるすなら、わたしもまたゆるそう。そして、もしわたしが何かのことでゆるしたとすれば、それは、あなたがたのためにキリストのみまえでゆるしたのである。

2:11 そうするのは、サタンに欺かれるこ

につけ込まれないためです。サタンのやり口は心得ているからです。

Ⅱコリ 7:5～13 (新共同訳)

7:5 マケドニア州に着いたとき、わたしたちの身には全く安らぎがなく、ことごとく苦しんでいました。外には戦い、内には恐れがあったのです。

7:6 しかし、気落ちした者を力づけてくださる神は、テトスの到着によってわたしたちを慰めてくださいました。

7:7 テトスが来てくれたことによってだけではなく、彼があなたがたから受けた慰めによっても、そうしてくださったのです。つまり、あなたがたがわたしを慕い、わたしのために嘆き悲しみ、わたしに対して熱心であることを彼が伝えてくれたので、わたしはいっそう喜んだのです。

7:8 あの手紙によってあなたがたを悲しませたとしても、わたしは後悔しません。確かに、あの手紙が一時にもせよ、あなたがたを悲しませたことは知っています。たとえ後悔したとしても、

7:9 今は喜んでいます。あなたがたがただ悲しんだからではなく、悲しんで悔い改めたからです。あなたがたが悲しんだのは神の御心に適ったことなので、わたしたちからは何の害も受けずに済みました。

7:10 神の御心に適った悲しみは、取り消されることのない救いに通じる悔い改めを生じさせ、世の悲しみは死をもたらします。

7:11 神の御心に適ったこの悲しみが、あなたがたにどれほどの熱心、弁明、憤り、恐れ、あこがれ、熱意、懲らしめをもたらしたことでしょう。例の事件に関しては、あなたがたは自分がすべての点で潔白であることを証明しました。

7:12 ですから、あなたがたに手紙を送ったのは、不義を行った者のためでも、その被害者のためでもなく、わたしたちに対するあなたがたの熱心を、神の御前であなたがたに明らかにするためでした。

とのないためである。わたしたちは、彼の策略を知らないわけではない。

Ⅱコリ 7:5～13 (口語訳)

7:5 さて、マケドニヤに着いたとき、わたしたちの身に少しの休みもなく、さまざまの患難に会い、外には戦い、内には恐れがあった。

7:6 しかし、うちしおれている者を慰める神は、テトスの到来によって、わたしたちを慰めて下さった。

7:7 ただ彼の到来によるばかりではなく、彼があなたがたから受けたその慰めをもって、慰めて下さった。すなわち、あなたがたがわたしを慕っていること、嘆いていること、またわたしに対して熱心であることを知らせてくれたので、わたしの喜びはいよいよ増し加わったのである。

7:8 そこで、たとい、あの手紙であなたがたを悲しませたとしても、わたしはそれを悔いていない。あの手紙がしばらくの間ではあるが、あなたがたを悲しませたのを見て悔いたとしても、

7:9 今は喜んでいいる。それは、あなたがたが悲しんだからではなく、悲しんで悔い改めるに至ったからである。あなたがたがそのように悲しんだのは、神のみこころに添うたことであって、わたしたちからはなんの損害も受けなかったのである。

7:10 神のみこころに添うた悲しみは、悔いのない救を得させる悔改めに導き、この世の悲しみは死をきたらせる。

7:11 見よ、神のみこころに添うたその悲しみが、どんなにか熱情をあなたがたに起させたことか。また、弁明、義憤、恐れ、愛慕、熱意、それから処罰に至らせたことか。あなたがたはあの問題については、すべての点において潔白であることを証明したのである。

7:12 だから、わたしがあなたがたに書きおくしたのは、不義をした人のためでも、不義を受けた人のためでもなく、わたしたちに対するあなたがたの熱情が、神の前にあなたがたの間で明らかになるためである。

7:13 こういうわけでわたしたちは慰められたのです。この慰めに加えて、テトスの喜びさまを見て、わたしたちはいっそう喜びました。彼の心があなたがた一同のお陰で元気づけられたからです。

I コリ 5:1～5 (新共同訳)

5:1 現に聞くところによると、あなたがたの間にみだらな行いがあり、しかもそれは、異邦人の間にもないほどのみだらな行いで、ある人が父の妻をわがものとしているとのことです。

5:2 それにもかかわらず、あなたがたは高ぶっているのか。むしろ悲しんで、こんなことをする者を自分たちの間から除外すべきではなかったのですか。

5:3 わたしは体では離れていても霊ではそこにいて、現に居合わせた者のように、そんなことをした者を既に裁いてしまっています。

5:4 つまり、わたしたちの主イエスの名により、わたしたちの主イエスの力をもって、あなたがたとわたしの霊が集まり、
5:5 このような者を、その肉が滅ぼされるようにサタンに引き渡したのです。それは主の日に彼の霊が救われるためです。

II コリ 6:16～18 (新共同訳)

6:16 神の神殿と偶像にどんな一致がありますか。わたしたちは生ける神の神殿なのです。神がこう言われているとおりです。『わたしは彼らの間に住み、巡り歩く。そして、彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。』

6:17 だから、あの者どもの中から出て行き、遠ざかるように』と主は仰せになる。『そして、汚れたものに触れるのをやめよ。そうすれば、わたしはあなたがたを受け入れ、』

6:18 父となり、あなたがたはわたしの息子、娘となる。』/全能の主はこう仰せられる。』

7:13 こういうわけで、わたしたちは慰められたのである。これらの慰めの上にテトスの喜びが加わって、わたしたちはなおいっそう喜んだ。彼があなたがた一同によって安心させられたからである。

I コリ 5:1～5 (口語訳)

5:1 現に聞くところによると、あなたがたの間に不品行な者があり、しかもその不品行は、異邦人の間にもないほどのもので、ある人がその父の妻と一緒に住んでいるということである。

5:2 それなのに、なお、あなたがたは高ぶっている。むしろ、そんな行いをしている者が、あなたがたの中から除かれねばならないことを思って、悲しむべきではないか。

5:3 しかし、わたし自身としては、からだは離れていても、霊では一緒にいて、その場ににいる者のように、そんな行いをした者を、すでにさばいてしまっている。

5:4 すなわち、主イエスの名によって、あなたがたもわたしの霊も共に、わたしたちの主イエスの權威のもとに集まって、
5:5 彼の肉が滅ぼされても、その霊が主のさばきの日に救われるように、彼をサタンに引き渡してしまったのである。

II コリ 6:16～18 (口語訳)

6:16 神の宮と偶像となんの一致があるか。わたしたちは、生ける神の宮である。神がこう仰せになっている、「わたしは彼らの間に住み、かつ出入りをするであろう。そして、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となるであろう」。

6:17 だから、「彼らの間から出て行き、彼らと分離せよ、と主は言われる。そして、汚れたものに触れてはならない。触れなければ、わたしはあなたがたを受け入れよう。」

6:18 そしてわたしは、あなたがたの父となり、あなたがたは、わたしのむすこ、むすめとなるであろう。全能の主が、こう言われる。』

問6 IIコリント 7 章を読んでください。コリントの信徒が悔い改めたことを聞いたパウロは、どんな気持ちになりましたか。

「あなたがたはわたしたちの心の中にいます」〔口語訳「あなたがたはわたしの心のうちにいて」〕(IIコリ 7:3、同 6:11も参照)という言葉には、どれほどの愛があふれていることでしょう。パウロは、自分の愛が報われることを強く願い、「あなたがたの心の中にわたしたちを受け入れてください」(同 7:2、英訳)〔【参考】“Make room in your hearts for us” (2 Cor. 7:2, ESV)〕とも語っています。「あなたがたの心の中に」という表現はギリシア語の原文にはありませんが、ほとんどの英訳聖書で用いられており、文脈がそれを裏付けているので、これは正しい訳です。

実際、コリントの信徒は、パウロと仲間の働き人に心を開きました。だからこそ、4節は喜びに満ちあふれており、パウロの言葉は、この時の彼の気持ちがどれほど前向きであったかをあらわしています。「わたしはあなたがたに厚い信頼を寄せており、あなたがたについて大いに誇っています。わたしは慰めに満たされており、どんな苦難のうちにあっても喜びに満ちあふれています」〔口語訳「わたしはあなたがたを大いに信頼し、大いに誇っている。また、あふれるばかり慰めを受け、あらゆる患難の中にあって喜びに満ちあふれている」〕(同 7:4)。パウロは慰めと喜びに満たされています。私たちの教会は、キリストに忠実に献身することで、どれほど多くの慰めと喜びを牧師たちの心にもたらすことができるでしょうか。

IIコリント7:5～16でパウロは、慰めと喜びの理由をさらに説明しています。これら二つの概念がこの箇所を中心であり、動詞の「パラカレオー」(慰める)、または名詞の「パラクレシス」(慰める)が、ギリシア語原文のIIコリント7章に合計7回登場します。この箇所は、手紙の冒頭部分(IIコリ 1:3～7)と同様、神における大きな慰めで終わっています。IIコリント7章におけるパウロの慰めは、「厳しい手紙」が意図した効果をもたらしたことによって、彼が経験した安堵から来ているのです。

この安堵は、テトスの好ましい報告によるものですが(同 7:6)、突き詰めれば、パウロが経験した慰めを与えてくださったのは神でした。神は確かに、「慰めを豊かにくださる神……あらゆる苦難に際してわたしたちを慰めてくださる」〔口語訳「慰めに満ちたる神。……いかなる患難の中にいる時でもわたしたちを慰めて下さる」〕(同 1:3、4)お方なのです。

興味深いことに、パウロは「慰めに満たされている」〔口語訳「あふれるばかり慰めを受け(る)」〕と同時に、「喜びに満ちあふれています」〔口語訳「喜びに満ちあふれている」〕(同 7:4、7、13)。痛みを伴う彼の手紙は、多くの悲しみをもたらしましたが、それは悔い改めを意図した神の御心による悲しみでした(同 7:9～11)。コリントの信徒は、「神の御心に適っ(て)」〔口語訳「神のみこころに添うた」〕(同 7:11)悲しみ、その悲しみは、「救いに通じる悔い改め」〔口語訳「救を得させる悔改め」〕(同 7:10)を生じ

させました。真の神の働き人の心に、これ以上の喜びをもたらすことができるでしょうか。

【参考】英語テキストにある英文

Have you ever experienced godly sorrow in your life? How did you know that it was sorrow according to God's will to lead you to repentance?

人生の中で、「神の御心にかなう悲しみ」〔口語訳「神のみこころに添うた悲しみ」〕を経験したことはありますか。それが、悔い改めへと導く神の御心による悲しみであると、どのようにして分かったのですか。

72

Ⅱコリ 7 章 （新共同訳）

7:1 愛する人たち、わたしたちは、このような約束を受けているのですから、肉と霊のあらゆる汚れから自分を清め、神を畏れ、完全に聖なる者となりましょう。

7:2 わたしたちに心を開いてください。わたしたちはだれにも不義を行わず、だれをも破滅させず、だれからもだまし取ったりしませんでした。

7:3 あなたがたを、責めるつもりで、こう言っているではありません。前にも言ったように、あなたがたはわたしたちの心の中にいて、わたしたちと生死を共にしているのです。

7:4 わたしはあなたがたに厚い信頼を寄せており、あなたがたについて大いに誇っています。わたしは慰めに満たされており、どんな苦難のうちにあっても喜びに満ちあふれています。

7:5 マケドニア州に着いたとき、わたしたちの身には全く安らぎがなく、ことごとく苦しんでいました。外には戦い、内には恐れがあったのです。

7:6 しかし、気落ちした者を力づけてくださる神は、テトスの到着によってわたしたちを慰めてくださいました。

7:7 テトスが来てくれたことによってだけではなく、彼があなたがたから受けた慰めによっても、そうして下さったのです。つまり、あなたがたがわたしを慕い、わたしのために嘆き悲しみ、わたし

Ⅱコリ 7 章 （口語訳）

7:1 愛する者たちよ。わたしたちは、このような約束を与えられているのだから、肉と霊とのいっさいの汚れから自分をきよめ、神をおそれて全く清くなろうではないか。

7:2 どうか、わたしたちに心を開いてほしい。わたしたちは、だれにも不義をしたことがなく、だれをも破滅におとし入れたことがなく、だれからもだまし取ったことがない。

7:3 わたしは、責めるつもりでこう言うのではない。前にも言ったように、あなたがたはわたしの心のうちにいて、わたしたちと生死を共にしているのである。

7:4 わたしはあなたがたを大いに信頼し、大いに誇っている。また、あふれるばかり慰めを受け、あらゆる患難の中にあって喜びに満ちあふれている。

7:5 さて、マケドニヤに着いたとき、わたしたちの身に少しの休みもなく、さまざまの患難に会い、外には戦い、内には恐れがあった。

7:6 しかし、うちしおれている者を慰める神は、テトスの到来によって、わたしたちを慰めて下さった。

7:7 ただ彼の到来によるばかりではなく、彼があなたがたから受けたその慰めをもって、慰めて下さった。すなわち、あなたがたがわたしを慕っていること、嘆いていること、またわたしに対して熱

に対して熱心であることを彼が伝えてくれたので、わたしはいっそう喜んだのです。

7:8 あの手紙によってあなたがたを悲しませたとしても、わたしは後悔しません。確かに、あの手紙が一時にもせよ、あなたがたを悲しませたことは知っています。たとえ後悔したとしても、

7:9 今は喜んでいます。あなたがたがただ悲しんだからではなく、悲しんで悔い改めたからです。あなたがたが悲しんだのは神の御心に適ったことなので、わたしたちからは何の害も受けずに済みました。

7:10 神の御心に適った悲しみは、取り消されることのない救いに通じる悔い改めを生じさせ、世の悲しみは死をもたらします。

7:11 神の御心に適ったこの悲しみが、あなたがたにどれほどの熱心、弁明、憤り、恐れ、あこがれ、熱意、懲らしめをもたらしたことでしょう。例の事件に関しては、あなたがたは自分がすべての点で潔白であることを証明しました。

7:12 ですから、あなたがたに手紙を送ったのは、不義を行った者のためでも、その被害者のためでもなく、わたしたちに対するあなたがたの熱心を、神の御前であなたがたに明らかにするためでした。

7:13 こういうわけでわたしたちは慰められたのです。この慰めに加えて、テトスの喜ぶさまを見て、わたしたちはいっそう喜びました。彼の心があなたがた一同のお陰で元気づけられたからです。

7:14 わたしはあなたがたのことをテトスに少し誇りましたが、そのことで恥をかかずに済みました。それどころか、わたしたちはあなたがたにすべて真実を語ったように、テトスの前で誇ったことも真実となったのです。

7:15 テトスは、あなたがた一同が従順で、どんなに恐れおののいて歓迎してくれたかを思い起こして、ますますあなたがたに心を寄せています。

心であることを知らせてくれたので、わたしの喜びはいよいよ増し加わったのである。

7:8 そこで、たとい、あの手紙であなたがたを悲しませたとしても、わたしはそれを悔いていない。あの手紙がしばらくの間ではあるが、あなたがたを悲しませたのを見て悔いたとしても、

7:9 今は喜んでい。それは、あなたがたが悲しんだからではなく、悲しんで悔い改めるに至ったからである。あなたがたがそのように悲しんだのは、神のみこころに添うたことであって、わたしたちからはなんの損害も受けなかったのである。

7:10 神のみこころに添うた悲しみは、悔いのない救を得させる悔改めに導き、この世の悲しみは死をきたらせる。

7:11 見よ、神のみこころに添うたその悲しみが、どんなにか熱情をあなたがたに起させたことか。また、弁明、義憤、恐れ、愛慕、熱意、それから処罰に至らせたことか。あなたがたはあの問題については、すべての点において潔白であることを証明したのである。

7:12 だから、わたしがあなたがたに書きおくったのは、不義をした人のためでも、不義を受けた人のためでもなく、わたしたちに対するあなたがたの熱情が、神の前にあなたがたの間で明らかになるためである。

7:13 こういうわけで、わたしたちは慰められたのである。これらの慰めの上にテトスの喜びが加わって、わたしたちはなおいっそう喜んだ。彼があなたがた一同によって安心させられたからである。

7:14 そして、わたしは彼に対してあなたがたのことを少しく誇ったが、それはわたしの恥にならないですんだ。あなたがたにいっさいのことを真実に語ったように、テトスに対して誇ったことも真実となってきたのである。

7:15 また彼は、あなたがた一同が従順であって、おそれおののきつつ自分を迎えてくれたことを思い出して、ますます心をあなたがたの方に寄せている。

7:16 わたしは、すべての点であなたがたを信頼できることを喜んでいます。

Ⅱコリ 6:11 (新共同訳)

6:11 コリントの人たち、わたしたちはあなたがたに率直に語り、心を広く開きました。

Ⅱコリ 1:3、4 (新共同訳)

1:3 わたしたちの主イエス・キリストの父である神、慈愛に満ちた父、慰めを豊かにくださる神がほめたたえられますように。

1:4 神は、あらゆる苦難に際してわたしたちを慰めてくださるので、わたしたちも神からいただくこの慰めによって、あらゆる苦難の中にある人々を慰めることができます。

7:16 わたしは、あなたがたに全く信頼することができて、喜んでいてる。

Ⅱコリ 6:11 (口語訳)

6:11 コリントの人々よ。あなたがたに向かってわたしたちの口は開かれており、わたしたちの心は広がっている。

Ⅱコリ 1:3、4 (口語訳)

1:3 ほむべきかな、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神、あわれみ深き父、慰めに満ちたる神。

1:4 神は、いかなる患難の中にいる時でもわたしたちを慰めて下さり、また、わたしたち自身も、神に慰めていただくその慰めをもって、あらゆる患難の中にある人々を慰めることができるようにして下さるのである。

金曜日 9月4日 さらなる研究

先週、『患難から栄光へ』第31章「患難と栄光」を読みましたが、この章は、もう一度読み直す価値があります。今回は、特にパウロの「厳しい手紙」に言及している部分、それを書いたときの彼の気持ち、また受取人たちの心からの悔い改めという良い知らせを受け取ったときの彼の喜びについて述べられている部分を、じっくり考察してみましょう。そして、この箇所がパウロの働きの信頼性についてどんなことを教えているのか、またキリストのための私たちの働きに、そこからどんな教訓を引き出せるのかを、考えてみてください。

「私たちは全宇宙に、つまり墮落した世界にも墮落していない世界にも、神には赦しがあること、そして神の愛を通して神と和解できることを明らかにしなければならぬ。人は悔い改め、心から悲しみ、キリストを自分のあがないの犠牲として信じるとき、神が自分と和解してくださっていることを悟るのである」(エレン・ホワイト『教育に関する特別な証』223 ページ、英文)。

【参考】——Ellen G. White, *Special Testimonies On Education*, p. 223.

“We are to reveal to the universe, to the world fallen and to worlds unfallen, that there is forgiveness with God, that through the love of God we may be reconciled to God. Man repents, becomes contrite in heart, believes in Christ as his atoning sacrifice, and realizes that God is reconciled to him.”

「教会として、私たちは大いなる光を受けている。この光は、世の益と祝福のために主が私たちに託されたものであり、私たちには和解の務めが与えられているのである。天上からの力によって、私たちは人々に、神と和解するよう懇願しなければならない」(『手紙 32』1903 年、英文)。

【参考】— White, Letter 32, 1903.

“As a church, we have received great light. This light the Lord has entrusted to us for the benefit and blessing of the world. To us has been given the ministry of reconciliation. With power from on high we are to beseech men to be reconciled to God.”

ひとたび神と和解したなら、人は聖い生活を追求しなければなりません。エレン・ホワイトは、パウロが新しい改宗者たちに、「自信を持たせ、成長するクリスチャンとなり、信仰を強め、熱意を燃やし、誠意をこめて神とみ国の到来を早める働きへと献身させようとした」(『希望への光』1432 ページ、『患難から栄光へ』第 20 章)と、述べています。

話し合いのための質問

- ① パウロは私たちを、福音の宝が入っている「土の器」(Ⅱコリ4:7)と呼んでいます。人間の状態が弱く、もろく、限界に満ちているという事実は、福音の宣教を弱めるのではなく、むしろいかに強めることができるのでしょうか。
- ② 「新しく創造された者」【口語訳「新しく造られた者」】(同 5:17)とは、どういう意味でしょうか。この言葉は、私たちの日常生活にどんな影響を与えますか。キリストはいかにしてあなたを新しく創造されていますか。
- ③ Ⅱコリント 6:4、5 でパウロは、福音のために経験した数々の苦難を列挙しています。彼は自分の苦しみ、どう対処しましたか(同 6:6、7 参照)。このことは、あなたが自分の苦しみに対処するうえで、いかに役立ちますか。
- ④ パウロは、神の御心になかった悲しみ【口語訳「神のみこころに添うた悲しみ」】と世の悲しみを対比しています(同 7:10)。悲しみは、悔い改めとどう関係しているのでしょうか。この世の悲しみと比べて、あなたは神の御心になかった悲しみを、どのように説明しますか。

73

【参考】副読本にある《概要》を転載します。

パウロの生涯は、イエスの生涯を反映する真の伝道奉仕の一例であり、イエスの生涯である無私精神、謙遜、そして他者への奉仕に献身する心を特徴としています。クリスチャンの指導者がキリストのために真の働きを行っている最も強力な証拠は、魂の回心と聖化です。それ以外にも、真のクリスチャン指導者は、伝道奉仕の中で苦しむ覚悟があり、この世の苦しみはキリストの再臨で示される栄光とは比べ物にならないことを知っています。

その日を待ち望む間、真のクリスチャン指導者たちは、キリストに倣うことによって、キリスト中心の和解の伝道奉仕を実践しています。神がキリストにあってこの世をご自身と和解させられたように、神はわたしたちに「和解の言葉」【口語訳「和解の福音」】(Ⅱコリ 5:19)を託してくださいました。それが可能となるために、私たちも聖なる神の御前で聖なる生活を送るよう召されています。実際、これは、ちょうどコリントの信徒たちの悔い改めが使徒パウロの心に慰めと喜びをもたらしたように、私たちの慰めと喜びをもたらすでしょう。それ以上に、聖なる生活を送ることで、神の心に喜びがもたらされます。

Ⅱコリ 4:7 (新共同訳)

4:7 ところで、わたしたちは、このような宝を土の器に納めています。この並外れて偉大な力が神のものであって、わたしたちから出たものでないことが明らかにするために。

Ⅱコリ 5:17 (新共同訳)

5:17 だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。

Ⅱコリ 6:4~7 (新共同訳)

6:4 あらゆる場合に神に仕える者としてその実を示しています。大いなる忍耐をもって、苦難、欠乏、行き詰まり、

6:5 鞭打ち、監禁、暴動、労苦、不眠、飢餓においても、

6:6 純真、知識、寛容、親切、聖霊、偽りのない愛、

6:7 真理の言葉、神の力によってそうしています。左右の手に義の武器を持ち、

Ⅱコリ 7:10 (新共同訳)

7:10 神の御心に適った悲しみは、取り消されることのない救いに通じる悔い改めを生じさせ、世の悲しみは死をもたらします。

Ⅱコリ 5:19 (新共同訳)

5:19 つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。

Ⅱコリ 4:7 (口語訳)

4:7 しかしわたしたちは、この宝を土の器の中に持っている。その測り知れない力は神のものであって、わたしたちから出たものでないことが、あらわれるためである。

Ⅱコリ 5:17 (口語訳)

5:17 だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである。

Ⅱコリ 6:4~7 (口語訳)

6:4 かえって、あらゆる場合に、神の僕として、自分を人々にあらわしている。すなわち、極度の忍苦にも、患難にも、危機にも、行き詰まりにも、

6:5 むち打たれることにも、入獄にも、騒乱にも、労苦にも、徹夜にも、飢餓にも、

6:6 真実と知識と寛容と、慈愛と聖霊と偽りのない愛と、

6:7 真理の言葉と神の力とにより、左右に持っている義の武器により、

Ⅱコリ 7:10 (口語訳)

7:10 神のみこころに添うた悲しみは、悔いのない救を得させる悔改めに導き、この世の悲しみは死をきたらせる。

Ⅱコリ 5:19 (口語訳)

5:19 すなわち、神はキリストにおいて世をご自分に和解させ、その罪過の責任をこれに負わせることをしないで、わたしたちに和解の福音をゆだねられたのである。